

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891600116		
法人名	社会福祉法人 木犀会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 ゆりのき	ユニット名	
所在地	〒309-1703 茨城県笠間市鯉淵6612-213		
自己評価作成日	平成26年8月10日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_021_kihon=true&JigyosyoCd=0891600116-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年10月10日	評価機関 決 済 日	平成27年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者が楽しく安心して過ごせるよう、レク等はリハビリを兼ね頭の体操、おとなの工作などを作ってます。また、音楽に合わせて椅子に座ったままできるようなリハビリ体操もしてます。送迎、来館の時はご自宅での状況、通所での状況を伝えるなどご家族との関係を密にして、小規模多機能（通所、訪問、宿泊）の特性を生かしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者と職員は「利用者の気持ちに寄り添って、望む暮らしが叶うように、地域や家族とともに支援いたします」との理念に基づき、管理者を中心に職員同士コミュニケーションを図りながら、小規模多機能の特性を活かして通所・訪問・宿泊のサービスを提供している。</p> <p>事業所は2階建ての1階部分を使用し、2階部分には障害者通所事業所と居宅介護支援事業所が併設されているため、利用者は外部の人との出会いも多く、管理者は隣接している同一法人の他施設も含め、連携しながら利用者支援に努めている。</p> <p>職員は利用者の排泄パターンを把握してトイレでの排泄を促し、排泄の自立に向けた支援をするとともに、在宅時の排泄介護の負担軽減につながるよう排泄の際の立位保持や車いす移乗について家族等に助言をしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の気持ちに寄り添って、望む暮らしが安心して継続していけるよう家族地域の方々と協力しつつ、理念を指針としてサービスを提供していこうと確認、実践している。	「利用者の気持ちに寄り添って、望む暮らしが叶うように、地域や家族とともに支援いたします」という事業所の理念を作成し、理念を食堂兼居間に掲示している。管理者と職員は月1回の職員会議で理念を唱和して共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さん、民生委員さんに運営推進会議に参加していただき、地域との交流、自主防災会、地域の独居高齢者など協力体制を話し合っている。回覧板で地域の行事もわかり、地域の人々と交流出来るよう支援している。	事業所は町内会に加入し、回覧板で知り得た地域の行事に参加するよう努め、公民館で開催される集会に参加して職員と利用者は地域の人達と交流している。中学生の体験学習を受け入れたり、迎盆の日には地域の伝統行事の藁で編んだ「盆綱」を引き、子ども達が立ち寄るなど、子ども達との交流もしている。管理者は地域の芸能ボランティア等を受け入れ、利用者が地域とつながりながら過ごすことができるように支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	木犀会主催のイベントなど相談室を設け、相談を受けたり、アドバイスをしたりしている。ご近所の独居の方とも話かけながら親しくなり交流が広がっていくように実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、家族、市職員、区長、民生委員で2ヶ月に1回開催している。地域の高齢者を取り巻く状況を話し合い、地域の一員として相談等受けている。	運営推進会議は利用者や家族等、市職員、区長、民生委員の参加を得て2ヶ月に1回開催をしている。事業所から利用者の生活の様子や運営状況、行事等の報告等を行い、利用者からも事業所での行事の感想などが報告されている。区長や民生委員からは地域の行事や高齢者の状況の報告、市職員からは市の認知症に対する取り組みの報告などがあるが、それらの意見をサービスの向上に活かしたり、全家族等に運営推進会議の開催や内容の報告をするまでには至っていない。	運営推進会議に地域住民の参加を呼びかけ、より多くの視点から事業所のサービスの質の向上につなげていくことを期待する。家族等へは毎月発行している「ゆりのき通信」等で、運営推進会議の開催や結果の報告をすることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課、地域包括支援センターへ事業所通信を配布し、実情報告を行うと共に困難事例の相談等している。市内における認認介護、独居の方など支援に組み込めるよう相談をしている	管理者は市担当者が運営推進会議に出席の際や利用者登録名簿提出のため市担当者を訪問した際に、利用者の状況や運営状況を報告している。 管理者は利用者の困りごとや家族等から相談があった場合には、市担当者や地域包括支援センターに相談するなど、情報交換をしながら日常的に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	環境整備、見守り等を通して歩行を妨げたり、行動制限をしないようにし、職員間で確認しつつ支援している。居室、玄関の施錠を含め身体拘束しないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の内容と弊害を理解し、居室や玄関は施錠をせず、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。 やむを得ず身体拘束をする場合の同意書や経過観察記録、再検討記録を備え、マニュアルも作成しているが、研修を実施するまでには至っていない。	全職員が身体拘束禁止となる具体的な行為を再確認するためにも、職員研修を実施することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、在宅の状況の把握、介護者との関わりなどから、危険を察知するとともに方策を検討し、地域包括センターに相談する。又、職員による虐待防止については具体例を挙げ、意識を高めて防止するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当される方には、市、社協等協力機関と連携調整し、利用終了後も家族の生活が維持していけるように橋渡しをした。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章を提示し、事前に説明を行い、疑問点にお答えし、納得を頂くようにしている。又、料金改定時には事前に必要性等の説明をし、ご理解、承諾をいただくようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時事業所と第三者機関の苦情相談窓口を明記すると共に利用者、家族に説明をしている日頃から連絡帳を活用すると共に職員は送迎時に要望や苦情を聞き、朝と夕のミーティング時に話し合い迅速な対応を心がけている。	利用者からは日常の会話の中から、家族等からは送迎時の話し合いや連絡帳を通じて意見や要望を聴き、朝と夕のミーティング時に管理者と職員で話し合い、ご飯は通常の固さとお粥の間の固さにとの要望に対し、対象になる利用者全員に軟食を提供しているほか、年1回家族アンケートを実施して意見等を汲みあげている。 重要事項説明書に、苦情相談受付窓口を明記している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は6ヶ月毎に個人面接を実施したり、月1回全体会議を開催し職員の意見を聞く機会を設けているほか、日頃から話しやすい雰囲気づくりに努め、随時個別に職員に相談にのっており、物品購入や介護の悩み等職員から出た意見等を運営に反映させている。	管理者は毎月の職員会議や、6ヶ月毎に職員の個人面談を実施して職員の意見や要望を聞く機会を設けているほか、日々職員とのコミュニケーションに努め、意見等を率直に言い合える関係を築いている。 職員から「利用者が使用する椅子にペットボトルを利用して杖ストッパーを取り付けては」などの提案や意見を日常的に管理者に伝え、管理者は利用者支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境等現場の意見を法人本部、代表者が意見を聞き、コンプライアンス会議を開催し、職員の処遇改善、働きやすい職場作りを共にめざしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修準備委員会で研修企画を行っている。職員のスキルアップと各事業所の質の向上を目指している。又、資格取得に関しては勤務の便宜を図ると共に奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型サービス協議会、笠間ケアマネ連絡会、市内福祉施設協議会等に参加して地域の中の事業所のあり方、質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間で新規利用者の情報を共有し、積極的に利用に関わり、利用者をよく知ることができるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	小規模多機能型事業所の機能を説明するとともに、家族の要望、心配事、将来への意向などを訪問して話し合い、確認し、信頼関係を築いていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを的確にし、利用者、家族、職員と協議しニーズを見極めて、サービスを実施している。社会資源に関しても情報を収集し、取り入れている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長期間関わる中で、お知恵をお借りしたり、今までの人生にお話を伺いながら、自分たちの人生観も変わっていくような気がします。利用者の望みに沿ってエンパワメントを高めながら支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の葛藤、苦しみ、利用者への想いを受け止め、相談しながら利用書の心身の安定が保てるように協力し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年中行事の外出は、かつて行ったことのある馴染みの所（神社、店など）を、ご家族に聞き外出先を決めている。美容院は行きつけの店へお連れしている。長期宿泊の方は、定期的に自宅に泊まられたりされる。	利用者の友人等が来訪した際には、お茶を出して来訪者が再度来訪し易いように配慮をしている。 職員は利用者と一緒に馴染みの理・美容院や店に買い物に出かけたり、長期宿泊の利用者は毎週自宅に泊まりに行くなど、利用者が馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援をしている。 初詣を始めとして事業所の年間行事等は、利用者の馴染みの場所を取り入れるよう配慮しているほか、職員は利用者の電話の取り次ぎ等も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然と利用者本人の望む役割が出てきて不自由なところを助け合ったり、親友同士の方、リーダーシップをとってくださる方と色々な過ごしされ方、関わり方をされているのを支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	高齢者夫婦世帯の利用者さんが入院後施設入所のため終了になったが、お住まいを訪問したり、近況をお尋ねしたり、相談を受けることもある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は利用者全員の生活歴を把握すると共に、朝と夕のミーティング時に利用者の状態を話し合い、職員間で共有して利用者一人一人の希望に沿ったケアができるよう支援をしている。意思疎通が困難な利用者の場合は送迎時に家族から話を聴く他、介護支援員が居宅訪問時に話を聞き利用者本位に検討している。	職員は利用者の生活歴を把握するとともに、利用者が今何をしたいかを確認し、朝夕の職員会議等で検討して利用者の希望にそうよう支援をしている。 思いを言い表せない利用者の場合は、表情や仕草を観察して職員で話し合ったり、送迎時や居宅訪問時に家族等に相談したりして利用者の思いや意向を聴き、利用者本位に検討をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査にて把握に努め、他事業者より情報も頂いている。また、通所では昔話が盛り上がりたりしてお話を伺い、利用者のこれまでの暮らしを知ることができている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、家族よりの日々の情報、通所、宿泊等での職員の気付きなどで把握していくことに努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は管理者や看護師、介護支援専門員、担当職員で話し合い作成するとともに、家族等に説明して確認を得ている。三ヶ月ごとにモニタリングを行い、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は随時現状に即した介護計画に見直している。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れ、毎月全職員でカンファレンスを実施して担当職員や管理者、介護支援専門員で検討して作成をしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直をしている。 介護計画は送迎時や介護支援専門員が居宅訪問時に説明し、家族等から確認の署名や押印を得ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時、ミーティング時に日々の情報を共有すると共に、個別記録、連絡ノートを活用し、実践に役立てている。また、ケアマネに随時利用者の報告をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用時間、送迎時間、入院、退院時支援、買い物、散歩、緊急の宿泊など柔軟に対応している。又、利用者さんの安定が保てるよう趣味のものを持参され、他利用者さんと共に楽しんでおられる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所、民生委員、乳酸飲料配達見守り、弁当配達等連携を築くようにしている。行きつけの美容院、病院の移送サービス、買い物など、定期的に来館してくださるシルバーリハビリ、傾聴ボランティアなど馴染みの生活維持を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診をされている。付き添い時には、主治医に相談、アドバイスもいただいている。訪問診療時に宿泊となった場合には事業所で受診される。また、病状により、専門医の支援もしている。	利用者や家族等が希望する医療機関への受診を支援している。 受診時は家族等の付き添いを基本とし、利用者のバイタル表や生活の様子を記入したメモを渡している。 家族等が利用者の受診に付き添えない場合には職員が付き添い、受診結果は送迎時に家族等に報告し、利用者の健康状態は家族等と職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェック、食事量、様態など変化を見逃さないように変化が見られたときは、かかりつけ医、家族に相談して体調管理をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院を訪問したり、入院時必要な支援を考えると共に主治医、病院相談室とも密に連携を取るようになっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、終末期・看取り介護への方針を確認していただく。重度化する利用者さんの状態変化に応じて支援のあり方、対応など主治医、家族、職員、訪問看護事業所も含めてカンファレンスを行い対応している。	「終末期・看取り介護への方針」や「重度化、終末期の介護に関する事前調査書」を作成し、看取りに関しては事業所では行わず、居宅のみ実施する方針であることを明記し、利用者と家族等に説明して書面で同意を得ている。 「ターミナルケア・精神的ケア対応マニュアル」を作成し、職員研修は本年度12月までに実施する計画を管理者は立てている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の講習会を受講、職場内で練習をし、看護師指導による誤嚥、嘔吐、発作時の対応等学習をしている。また、救急搬送の対応等学習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと年2回避難訓練を実施するとともに消火器の使い方、避難経路を確認している。運営推進会議に区長も参加され災害時近隣住民の協力が得られるようになっている。	消防署立ち合いのもとで避難訓練を年2回実施し、訓練の実施状況や反省点などを記録しているが、夜間を想定した避難訓練や運営推進会議等で災害時における地域の協力体制の構築に向けた話し合いをしているが、実現するまでには至っていない。 地域の避難場所防災マップを事務室に掲示しているほか、災害に備えて水や米、乾パン、缶詰のパン、懐中電灯、毛布などを備蓄している。	夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、地域の防災マップに記載されている避難場所の確認をしておくことを期待する。 事業所職員のみでの避難誘導の限界を認識し、地域との協力体制を早期に構築することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の基本情報から生活歴を把握し、一人一人の人格を尊重した言葉かけに努めている。排泄時には小声で声をかけたり、失禁時は洗面室で着替えるなど、利用者のプライバシーに配慮した対応をしている。個人情報に関する書類は事務所に保管している。	職員は利用者に丁寧に話しかけるなど、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。 トイレ介助では誇りやプライバシーを損ねないように小声で声をかけ、失禁時にはさり気ない言葉かけで洗面室に誘導をしている。個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。 行事等の利用者の写真を「ゆりのき通信」に掲載し、外部にも配布しているが、利用者や家族等から写真掲載の同意を得るまでには至っていない。	利用者の写真の掲載は利用者や家族等から同意を得た利用者のみとし、書面で同意を得て掲載することを期待する。 収納BOXに利用者の名前を書き、トイレ内で管理しているため、利用者のプライバシーを考慮して保管方法を工夫する事を期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	通所では、その日の気分、体調、希望に留意しながら、お仕着せの時間の過ごし方にならないようにしている。生活の希望（外出、知人に会いたい等）がわかった時は職員と共に叶うように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日より大まかな流れはあるが、利用者のペースとその日の気分、意向、やりたいことなどを表出するような働きかけをしている。個別支援を意識して関わっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院や洋服店、メガネ店など意にかなった買い物などをしていただいている。入浴後は、髪にドライヤーをかけご本人の好みに合わせたヘアスタイルにしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お好みのお弁当、お寿司など召し上がって頂いたり、近くのコンビニ、スーパーで一緒に買い物をしている。漬物、手作りおやつなども一緒に行っている。	献立は外部に委託し、届いた食材で職員が調理をしており、利用者の苦手な献立は代替品で対応をしている。 職員は食事介助や会話をしながら利用者と一緒に食事をしているほか、利用者は職員と漬物を作って食事の一品としたり、下膳をするなど、能力に合わせて役割を担っている。 行事食は利用者の希望を取り入れた献立にしたり、スーパーで好みのお弁当やお寿司を買って来たりするなど、利用者にとって楽しみなものとなるように工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の記録、脱水症状の危険と水分補給の大切さを利用者さんに説明している。また、家庭で摂られている好みの飲み物も訊ねてお出ししている。毎月体重測定を実施し健康維持も検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別の口腔ケアの実施を決め支援をしている。歯科受診の送迎支援、本人の能力に応じて歯ブラシの補助もしている。また、舌の清潔など口腔内の健康維持支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して利用者一人一人の排泄パターンを把握するとともに、時間を見計らって誘導しトイレで排泄できるよう支援している。職員は利用者に適したおむつやパットの使用について検討し、自立に向けた支援をしている。在宅での家族等による介護の負担軽減を視点におき、しょくいんは利用者の立位維持や車イスの移乗について家族等にアドバイスをし排泄ができるよう支援をしている。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行うとともに、時間を決めて誘導したり、利用者の様子から声をかけてトイレでの排泄を促している。 トイレ誘導やポータブルトイレを利用し、なるべく紙おむつを使わないよう自立に向けた支援をしている。 職員は在宅時の排泄介護の負担軽減につながるよう排泄の際の立位保持や車いす移乗について家族等に助言をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄パターンを把握するとともに、食事、水分摂取量、運動のバランス等習慣性便秘の予防に努めている。また、看護師による施術等様態に合わせて実施している。家族、主治医と相談し服薬の支援もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	通いの利用者は基本的には2人ずつの入浴を支援しているが、利用者の希望にそって一人の入浴や1番風呂、仲の良い利用者同士での入浴等に対応している。シャワーチェアにマットを敷いたり、手すりを設置して安全に入浴ができるよう支援しているほか、菖蒲や柚子を入れ季節を味わっていただいています。	泊りの利用者については週3回を基本としているが、毎日でも入浴が可能となっており、仲の良い利用者同士での入浴なども支援している。 入浴を拒む利用者には家族等と相談して洗髪のみとしたり、無理強いはせず職員や時間帯を変えて声かけをするなど、工夫をして入浴できるように支援をしている。 毎日入浴剤を使用するほか、季節を感じられるように柚子湯や菖蒲湯を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を希望されたり、疲労気味の時など、畳、個室で休息していただく。仲の良い利用者同士同じ部屋で休めるようにしている。宿泊時は枕を持参されたり、飲物を用意し安眠できるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルに職員は目を通し、服薬の仕方、副作用等理解に努めている。また、身体精神ノートに記入し申し送り等再確認している。処方の変更、低血糖状態の予防など、体調変化を見逃さないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭菜園、花づくり、季節の野菜等、通いの日に届けて頂いたり、季節の行事やしきたりに沿った用意を指示していただいている。又、野菜を持参され、職員とぬか漬けを作り楽しまれている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は夕方通いの利用者さんの見送り後、近隣を歩いている。買い物はご希望に沿ってコンビニ、スーパーマーケット、用品店等日常的に行っている。	天気の良い日には利用者と職員で事業所敷地内や周辺を散歩したり、外気浴をしている。 泊りの利用者は通いの利用者を見送って、職員がスーパーマーケットに買い物に行く際に同行している。 初詣を始めとして、季節の花見等外出行事に車いす使用の利用者も同行ができるよう支援をしている。 職員が同行できない場所は、利用者の希望を家族等に伝え、出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのコンビニ、スーパー、移動販売など財布持参の方は買い物をされている。また、お小遣いをお預かりしているのでお楽しみのお菓子、飲み物等購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、携帯、手紙、年賀状等それぞれの方の要望に沿って支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にしている。館内は清潔を心掛けている。温度湿度など管理し自然の風も感じられるようにしている。季節の花も玄関、ホールの目の届く所に置いている。トイレには、手作りの良き匂いのする小物を置いている。	共用空間は清潔に保たれ、職員は換気や温度調節、加湿などに気を配りながら自然の風も感じられるよう配慮するとともに、観葉植物なども配置して利用者が居心地よく過ごせる空間となっている。 利用者が季節を感じられるように、玄関と居間兼食堂には季節の花を飾っている。 利用者が畳の部屋や居間兼食堂の壁際に配置されているソファやベンチなど、思い思いの場所で居心地よく過ごせるように工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の利用者によってテーブルの配置を考え、ソファ、居室、こたつ、畳等を利用したり、事務所でお話したり、外にベンチも用意してホッとできる居場所作りを心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団、枕、タンス、冷蔵庫、置物等使い慣れたものを使用されている。また、冬場は湯たんぽ、電気毛布なども使用されている。	居室にはベッドが備え付けられているが、泊りの利用者と家族等に馴染みの家具や寝具、飾り物などを持ち込んでもらえるように働きかけ、利用者はそれぞれ好みの使い慣れた物品を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物のたたみ、居室でタンスに無理なく収納出来、自分で管理していただけるようにしている。本や道具類も見えるところ、手に取りやすい所に保管している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護事業所 ゆりのき

作成日 平成27年2月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	プライバシーの保護	第三者からみてもプライバシーがまもれるようにする	トイレ内の収納BOXに限らず、館内すべてをチェックし、プライバシーの確保をする。個人情報の同意書に「ゆりのき通信」写真掲載の件も付け加える。	3ヶ月
2	35	災害時等、近隣住民との協力体制の構築	利用者の安全確保	夜勤を含め、避難訓練の実施、近所との協力体制を整える。	1年
3	6	身体拘束しないケアの研修	身体拘束がもたらす弊害を認識する	事例など出しながら、1年のカリキュラムそ組み研修をする	1年
4	4	運営推進会議のお知らせ	ゆりのき通信を通して色々な行事、運営推進会議日時等知ってもらう	ゆりのき通信に運営推進会議の日時、場所を提示する	3ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。